

高等学校農業科における動物園活動の教育的意義 —科目「総合実習」及び「課題研究」における授業実践を通して—

学籍番号 229205
氏名 大西哲平
主指導教員 平井美幸
副指導教員 梅川康治

第1章 緒言

動物園活動とは、動物介在活動及び動物介在教育の一環として取り込まれる教育活動である。A 高等学校では、科目「総合実習」及び「課題研究」が探求的な学びの重点科目として置かれており、各学科の特色を生かした教育活動が展開されている。ふれあい動物専攻で取り込まれる動物園活動は、科目「総合実習」で培われた学びが、科目「課題研究」の中で、研究的・活動的に展開されており、両科目が密接に関連した活動となっている。一方で、動物園活動が高等学校の教育課程で科目「総合実習」及び「課題研究」に位置付けているにもかかわらず、その教育的意義は検証されることがない。また、動物園活動に携わる教員が、動物園活動における目的や意義を明確にし、共通認識のもと、計画的・意図的に展開していくことが求められる。

そこで、本実践課題研究は、A 高等学校農業科ふれあい動物専攻において、教育課程の科目「総合実習」及び「課題研究」の両立に位置付けた教育活動として動物園活動を実践化し、生徒からみた動物園活動の教育的意義を明らかにすることを通して、持続的な動物園活動を検討することを目的とした。

第2章 科目「総合実習」及び「課題研究」に位置づく動物園活動の授業実践

本章では、科目「総合実習」及び「課題研究」における計画的・意図的に動物園活動を実践することを目的に、はじめに試案として、実際の動物園活動から学習指導案を作成後、私も含めた専攻教員で共有・検討し、再考した学習指導案のもと実践を行った。

動物園活動の学習指導案を作成し、実践を可視化したことで、計画的・意図的に動物園活動を実践するうえで課題を整理し、改善・検討することができた。その結果として、動物園活動は、科目「総合実習」で培われた技術力が、科目「課題研究」で実践的に展開されており、科目間を融合した実践であることが明らかとなった。また、学習指導案がマニュアルに近い機能となり、教員間での役割の明確化や活動時の生徒の学習内容の把握などが可能となったと考えられた。

学習指導案を基に、教員間でのコミュニケーションの機会が増加し、動物園活動について共通認識をもち活動に取り組むことができたことで計画的・意図的な動物園活動の実践となったと考えられ、科目「総合実習」及び「課題研究」における計画的・意図的に動物園活

動を実践することを目的とした本研究は、概ねその目的は達成できたと考えられた。

第3章 生徒からみた動物園活動の教育的意義

本章では、生徒からみた動物園活動の教育的意義を明らかにすることを目的として、対象者6名よりインタビューを用いて得た回答から SCAT による質的分析を行った。

動物園活動を実践した卒業生の語りから、①生徒が【学習活動へのやりがい】を得ること、②生徒が【将来につながる協働力】を得ること、③生徒が【自信の獲得】をすること、④生徒が【対人関係力の向上】をすること、⑤生徒が【教員の意図的な働きかけ】を得ること、といった5つの教育的意義の示唆が得られた。

動物園活動は、教員による生徒との日常的な関わりから、生徒の興味関心や主体性、学習への理解度などを把握し、指導計画のもと、意図的に展開される教育実践であることが生徒にとって有意義な教育活動となると考えられた。

第4章 総括

動物園活動は、生徒間での継承と教員の経験知により展開されていたが、学習指導案として実践を可視化したことで、動物園活動の目的や評価方法、役割を検討することにつながることに加え、生徒間での人間関係や生徒の困り感の把握、生徒の強みを生かした指導について定期的な共有が可能となり、教員による計画的・意図的な動物園活動の実践となると考えられた。

生徒からみた動物園活動の教育的意義を明らかにしたことで、教員の適切で意図的な働きかけが生徒にとっての重要な教育上の意義であることが示唆された。動物園活動に取り組む生徒は、教員の意図的・計画的な働きかけのもと、飼養動物を用いて動物との関わりを対象者に向けて展開する体験的な学習活動へのやりがいを感じ、経験学習を通じて、生徒は自信を獲得し、対人関係力を向上させ、将来につながる協働力を得ることができる社会で活躍しうる力量を形成している価値ある教育活動であると考えられた。

しかし、担当者の裁量によって実践が困難となる可能性があること、動物園活動の企画・運営は学年間で生徒集団の人間関係や対象校によって求められる力が異なること、抽出された生徒からみた動物園活動の教育的意義に偏りがある可能性があること、実践する教員が考える動物園活動の教育的意義の示唆を得られていないことが課題として挙げられる。

今後、人事異動などによる学校組織における年齢の不均衡化や若手教員の増加が想定されることから、技術力が求められる農業教育において、各学科で展開する科目「総合実習」及び「課題研究」の授業を学習指導案として実践の可視化を進め、新しく配属された教員に継承していくことが求められることが考えられた。

動物園活動が A 高等学校の教育課程で科目「総合実習」及び「課題研究」に位置付けているにもかかわらず、その教育的意義は検証されることがなかったことから、本実践課題研究は、高等学校農業科の実践事例として有効な実践的知見の一助となることが期待される。